

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・能登半島地震の発生後は来客数が非常に減少していたが、ここへ来て買い回り客がかなり増加しており、これから上昇に向かう。
		百貨店（営業担当）	・能登半島地震から1か月が経過し、能登からの来客がほとんど見られなくなっているが、今後復興が徐々に進むにつれ、来客数も多少回復に向かう。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地元の大手有力企業が最高決算となったため、関連企業の多い地元の店舗を中心に、来客数、客単価共に伸びていく。
		観光型旅館（スタッフ） 旅行代理店（従業員）	・予約状況はまだ厳しいが、能登半島地震の復興のアピール活動が本格的に行われており、その効果が期待できる。 ・好調な企業業績に後押しされ、個人需要の拡大が見込まれる。また、初夏商品の予約状況も好調である。全国に発信される「元気です、能登」の影響で、地元の動きも活性化される。
	住宅販売会社（従業員）	・若い層の賃貸住宅から新築住宅への動きは非常に底固い。持家のある客層の新築は少ないが、リフォームへのシフトが非常に増えている。	
	変わらない	スーパー（店長）	・来客数は減少傾向にあるものの、1人当たりの買上点数は前年に比べ伸びており、現状が続く。
		スーパー（総務担当）	・今後、急激な変化はないと思われるが、梅雨時の天候により青果物に大きな動きがあるかもしれない。
		スーパー（営業担当）	・一品単価、客単価共に下げ止まりとなっており、天候にもよるが、これから徐々に回復傾向をたどる。
		コンビニ（経営者）	・月によって来客数や客単価が上下しており、厳しい現状がこのまま続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・団塊世代を意識した新型車が期待はずれとなったため、6月発売予定の新型量販車種に期待したいが、不安材料がある。
		乗用車販売店（経理担当）	・6月にミドルクラスの新型車が登場するため若干持ち直すすが、量的回復は期待できない。
		乗用車販売店（営業担当）	・最近の週末の来客数が前年に比べ悪化傾向にある。
		スナック（経営者）	・相変わらず業種間格差があるなかで、好調だった製造業の客からも「減速」の声が聞かれる。当面は現状のまま変わらない。
		観光型旅館（経営者）	・地震の風評被害や原油の高騰など、旅館経営に影響を及ぼす逆風が吹いている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランの利用客の増加傾向はやや弱くなるものの継続する。また、宴会部門でも若干の増収が見込まれる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約は前年より減少し、宿泊も能登半島地震の影響から国内の団体は減少している。当面は現状のまま推移する。
		旅行代理店（従業員）	・旅行の予約状況などから見て、現状維持が精一杯である。
通信会社（営業担当）		・携帯電話の新機種が続々発売され、高性能機種を中心に売れているが、画面の文字が大きい簡単タイプも人気がある。今後も大きな需要が見込まれる。	
通信会社（営業担当）	・携帯電話のキャンペーンは5月も継続するが、買い換え客の大半は4月に購入済みのため、大幅な販売台数増加は見込めない。しかし、5月末から順次新機種が発売されるため、キャンペーンで足りない分をカバーできる。		
競輪場（職員）	・5月はゴールデンウィークなどで一時的に入場者及び売上高の回復が期待できるが、6月以降は客層の高齢化が目立つことから、売上単価に期待が持てず、回復の兆しは見えない。		
その他レジャー施設（職員）	・客単価は上昇傾向にあるが、客層により差がある。商品販売量があまり増えていないことから、景気回復感はない。		
住宅販売会社（従業員）	・民間の金融機関で住宅ローンの金利を0.1%下げたところもあるが、全体的にはまだまだ厳しいのが現状である。春のこの時期に新規客が少ないため、今後の新築についても不安になる。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・一気に暑くなると、衣料品などは「合いもの」の売行き不振が心配になる。ゴールデンウィークも農作業に時間を取られ、購買には結び付かない。	

	一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・能登半島地震の影響は能登のみならず、金沢、加賀温泉、さらには富山・福井県の温泉・観光地にも飛び火している。特に石川県は小手先の復興対策ではなく、構造的な復興対策を成功させなければ、主要産業である観光が危うくなる。	
	スーパー(店長)	・ガソリン価格が上昇しており、これが食品の売行きに影響を及ぼす。消費者は食品への影響を少なくするため、低価格商品を求める結果、価格が低下する。	
	スーパー(店長)	・この1年間に、周辺で一部上場のライバル企業が4店舗も出店しており、競争はますます激しくなる。	
	スーパー(店長)	・相変わらず周辺人口が減少するなか、スーパーやドラッグストアの競合店の出店が活発である。今後もこの現象は変わらない。	
	乗用車販売店(経営者)	・小型の低価格車が中心の需要構造においては、収益面でかなりの落ち込み状態が継続する。	
	高級レストラン(スタッフ)	・能登半島地震の風評被害が予想され、旅行シーズンにもかかわらず県外旅行者による受注が団体、個人とも減少する。	
	一般レストラン(スタッフ)	・人手不足はここ1年ぐらいの課題であるが、パートタイマーへの厚生年金適用拡大の閣議決定以降、労働時間短縮や退職希望のパートタイマーが増加し、人手不足に拍車がかかっている。加えて、経費負担増など懸念材料が多く、廃業に追い込まれていく店が多くなる。	
	タクシー運転手	・今後、行楽などでタクシー利用は前年以上にあると思われるが、4月があまりにも良かったため、反動で若干落ちる。	
	タクシー運転手	・原子力発電所の事故隠し事件、能登半島地震などの特需がなくなり、平常に戻る。	
	通信会社(役員)	・ケーブルテレビ業界の全国的課題である区域外再送信問題の解決が遅れているため、今後の契約数の増加見通しは現時点では厳しい。	
	テーマパーク(職員)	・新規客の問い合わせが少なくなっており、能登半島地震の風評被害の影響はしばらく続く。	
	住宅販売会社(従業員)	・住宅の資材や原材料の高騰もあり、駆け込み需要が期待されたものの、客の動きは鈍く、現状が続く。	
	悪くなる	コンビニ(経営者)	・近いうちに、店舗周辺で競合店の出店が控えており、売上はますます悪化する。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業(営業担当)	・取引先から「大型の受注を取れたので、電話システムの更改を考えたい」として、受注になったケースがあった。マーケットの動きとしては上昇ムードである。
	変わらない	繊維工業(経営者)	・衣料は気候次第である。また輸出の企画を積極的に進めないと先行きは厳しくなる。
		一般機械器具製造業(経理担当)	・原油価格の再上昇など景気の減速要因はあるが、急激な変化はない。
		電気機械器具製造業(経理担当)	・IT関係では新製品の登場が待たれる状態であり、回復には時間が掛かる。
		精密機械器具製造業(経営者)	・眼鏡のワンプライスショップが国内市場に広がるなか、中国製商品の量的拡大がますます進んでいる。各社は高付加価値商品の開発に躍起であるが、量的にはさほど伸びていない。
		司法書士	・会社解散は多いが、破産に至る前に解散するという事案が多い。
	やや悪くなる	食料品製造業(企画担当)	・今後、主原料の価格が一層上がることが明確であり、収益面では悪化傾向が予想される。
		一般機械器具製造業(総務担当)	・設備投資が一巡してきており、特殊なものしか受注できない。
		建設業(経営者)	・今後も公共事業の増加が見込まれない状況下で、新年度工事の受注ができずに破たんする建設会社の増加が懸念される。
輸送業(配車担当)		・軽油の値上げが確実になり、上昇幅によっては収益を圧迫し、利益が出てこなくなる。	
悪くなる	建設業(総務担当)	・受注確保のため、低価格での入札競争がますますエスカレートしており、改善の兆しは見られない。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・求められるスキルを満たす派遣スタッフが慢性的に不足しており、また派遣料金の値上げが難しいなかでは業績の伸長が厳しい。
求人情報誌製作会社(編集者)		・常用雇用よりも非常勤雇用のニーズが高い状態が、今後も続く。	

	職業安定所（職員）	・退職の意思を事業主に伝えていない在職求職者の来所が多い。すぐに転職を希望しているわけではなく、今以上に良い条件の職場があれば転職したいという考えのためとみられる。正社員の求人が増えない限り、このような状況は今後も変わらない。
	職業安定所（職員）	・求人は増えているが、派遣求人も多い。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1倍台を超え、上昇傾向で推移しているが、新規求人数はここ2か月ほど前年に比べ減少している。
やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・業種ごとの構造変化や競争激化、雇用形態の変化などにより、広告媒体別の需要にかなりの差が生じる。
悪くなる	-	-